

会議録

1 名称 平成26年度第7回普賢寺小学校コミュニティ・スクール推進委員会

2 日時 平成27年3月11日(水) 19時30分～20時50分

3 場所 普賢寺小学校2階コンピューター室

4 出席者等

(1) 委員 (13名) 奥田委員長、榊副委員長、今井委員、中川委員、
中西委員、藤林委員、田宮委員、塩田委員、西村委員、
青木委員、吉高委員、廣見委員、小長谷委員

(2) 事務局 畑中教頭、上原教務主任、
藤井教育総務室担当課長、田原教育総務室企画係長

(3) 傍聴者 (2名)

5 議事

(1) 平成26年度普賢寺小学校学校評価

【事務局から説明】

【主な意見等】

委員 アンケートの対象となる保護者の数は。

事務局 家庭数で58。

委員 保護者アンケート項目の「保護者や地域との交流を深め、連携をはかっている」が前回より数値が悪くなっているが、どう受け止めているのか。

委員 今回は回収率が上がったので、前回のように100%にはならなかったと考えている。

委員長 来年度からの学校運営協議会の取り組みが改善につながるのではないかと。

委員 児童アンケートの方法は。

事務局 一人一人にアンケートを配布した。

委員 「地域の人といっしょに学習するのは、楽しい」について、保護者と児童の意識に差があるようだが。

委員 大きく見れば変わらないと考えている。

委員長 コミュニティ・スクールとしては、数値を上げていきたい。アンケート結果は、これからの取り組みに役立つと思う。

(2) 学校運営協議会の設置に係る説明会について

【事務局から説明】

【主な意見等】

委員 説明会に参加した保護者から話を聞いた。
自分達の意見をどうやって学校運営協議会に伝えれば良いか、窓口をはっきりしてほしいとのことであった。

委員長 意見も持っている方がいるということなので、学校運営協議会でしっかり吸い上げ、活動に反映していきたい。

(3) 学校運営協議会のスタートに向けて

【事務局から説明】

- 学校運営協議会の愛称について、応募4点の中から「なのはな委員会」を選定した。
- 公募委員について、応募者1名を推薦することを承認した。

【主な意見等】

委員 部会員は何人くらいが適当と考えているのか。

事務局 余り多い人数は考えていない。少ない人数でスタートして探っていく方が良いと思う。

委員 P T A会長と地域委員の任期は1年。学校運営協議会委員とし

での任期2年目は役員ではなくなるので、PTAの意見の吸い上げが難しい。

委員 学校運営協議会は継続性があった方がよい。責任を持って活動するためにも、あくまで任期は2年で。

委員 前会長がPTAの代議員会に出席するなど工夫が必要。

委員長 任期2年でスタートし、どういう方法が良いか考えていきたい。

委員 部会の活動として挙げられている「児童作品の地域展示」とは。

事務局 今は学校内で展示しているが、地域の人に観てもらえる機会があれば良いと考えている。

委員 運動会の案内のように、色々なところに貼ってもらえれば。

また、小学校でしている文化鑑賞会などについても、地域や老人会に声を掛けてほしい。そういうのも地域との繋がりの一つ。せっかくの取り組みなのでもったいない。

事務局 大切な視点なので、ご意見を生かしていきたい。

委員 子どもが卒業してしまうと、学校は塀が高い。色んな形で地域の人が学校に来られるような取り組みに踏み込めないか。そうしないと全体に広がらない。できることはあるだろうから、是非お願いしたい。

まとめ

- これまでの活動を振り返ると、1年目は普賢寺小学校の現状を見つめ直す作業であり、その中で広報などが充実してきた。
- 2年目は、現状を踏まえて地域の歴史・文化をいかに生かしていくかを考えるとともに、学校運営協議会の具体的な内容を検討した。
- 順調な歩みの中で取り組みが進んできたと感じている。
- コミュニティ・スクールの原点は保護者や地域住民の学校運営への積極的な参画であるので、4月にスタートしてからは、地域の声を拾い、反映させることが重要。
- 大学ではFD（授業内容の改善）、アクティブ・ラーニング（能動的な学修）がテーマとなっているが、言い換えれば、普賢寺小学校の取り組みを大学の授業に取り入れるということ。
- また、先の中教審の答申では、大学入試改革が掲げられている。これからは、いかに能力を発揮できるかが問われるが、普賢寺小学校の地道な取り組みが生きてくると思っている。

(4) その他

【委員長・副委員長から挨拶】